

最優秀賞

小さなポトス

岸本 美有 大阪府堺市 三十一歳

今日も旦那さんは二階のウォークインクローゼットへと入る。そこは我が家のリモート部屋。新しい生活様式は旦那さんの出勤スタイルを変えた。毎日八時間のウォークインクローゼット、窓はない。白い壁とパソコンと書籍だけの世界は「独房」とまでは言わないが、きつとそんな気持ちにさせるのだろう。私から見れば「通勤時間が短くて楽でいいなあ」と思っていたが、当の本人からは笑顔が減り、なぜかちょっとした家庭内のいざこざも増えた。そんなある日、「観葉植物を買いに行こう」と誘われた。無機質な部屋に閉じこもって仕事をするのが辛いと言う。ただ家に植物を置くことは考えたこともなかった。不安はあったが、一緒に観葉植物を買いに出かけた。もちろん小さなウォークインクローゼットに大きな背丈の観葉植物は置けない。小さな鉢に植えられたポトスとハンギングを購入して帰路についた。植物に全く興味のなかった旦那さんが、店員さんに教えてもらった通りに水やりをし、時には日光浴をさせ、大事に大事に育てている。仕事部屋を覗くと、ハンギングにすっぽり収まった小さなポトスが、旦那さんを優しく見守っている。それから我が家にはベンジャミン、ガジュマルと新しい家族も増えた。気軽に外出できる世の中、しかし家の中で感じる緑は特別だ。我が子のように愛らしく、いとoshii。本日の我が家の平和も、この小さなポトス達のおかげなのだろう。